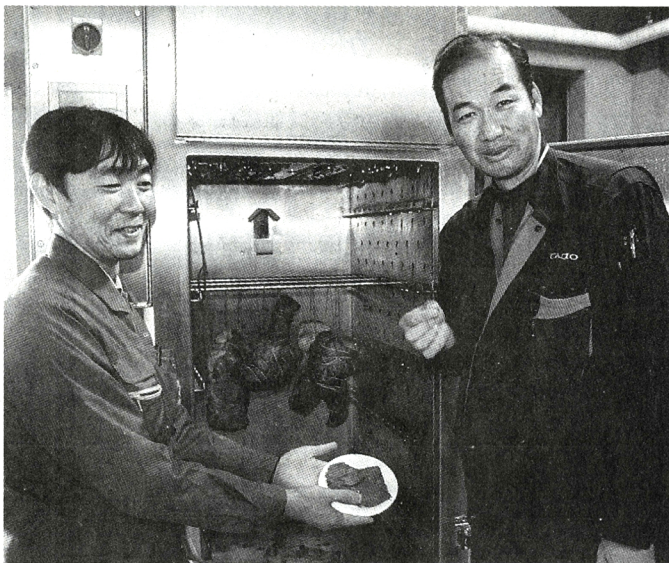


## 大樹でシカ肉加工開始

### キャリア技研 ドローン使い 捕獲実験

【大樹】ドローン(小型無人飛行機)を使ったシカ駆除システムの実証試験を行うキャリア技研(本社名古屋、富田茂社長)は、拠点とする町晩成の施設内でシカの食肉加工を始めた。ドイツから輸入した加工機械を施設内に設置し、捕獲から活用まで総合的なシカ対策に取り組む。

同社は次世代自動車、無 究開発を進めてきた。人飛行ロボット、画像認識 森林、平原など試験効果によるオートパイロット技 を確認しやすい大樹町内で術などを開発している。ド は、昨年から町晩成に拠点ドローンによるシカなど有害 となる事務所を設置。ドローン駆除では、国の国家戦 略特区事業の認定も受け、 発生させて追い立て、 効率 4年ほど前から愛知県で研 良く捕獲する技術などを試



シカ加工を始めたキャリア技研の富田社長(右)と町に常駐する職員の太田智広さん

### 駆除から販路開拓まで一貫

食肉加工施設は約2000平方メートルの建物内に、10月末に設備を設置。岐阜県のハム・ソーセイジ店「ドイツデリカテッセンクリンゲン」(野村吉史代表)から、製造指導を受け、薫製加工品などを作る。

同社は愛知県の「新あいち創造研究開発補助金」も活用し、1億円程度を掛け、町晩成の事務所をシカ駆除、加工拠点として整備したい考え。富田社長は「夏場の夜間に、ドローンでシカを見つけて追い出す実験にも成功した。特産として販路開拓など活用まで手掛け、駆除システムとして確立させたい」と計画する。

開発に当たっては、大樹町、幕別町などから捕獲許可を受け、十勝農協連の牧場敷地内などでも行う。富田社長は「地元の協力を感謝したい。地域の若い人の雇用にもつなげたい」と話す。

協力する大樹町森林組合の水谷隆司組合長も「森林や農業のシカ被害が多い中、効果を挙げてくれれば」と期待している。(眞尾敦)